

平成27年2月1日(日)

老球の細道110号

突破する(ペネトレーション)

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

バスケットボールのゲームの中では、ディフェンスを突破することができなければゴールのチャンスはやってこない。人生においてもディフェンスの代わりに、苦境、困難、不可能、逆境というような「人生の壁」が立ちふさがる。この壁を突破しない限り、自己実現、幸福は達成できない。ディフェンスの壁を突破するより困難である。

人生の壁を突破するには何が必要なのか。ある統計によると日本の各界のプロフェッショナル達は、決断力、独創性、集中力、行動力を突破する力の上位にあげている。

医学者で政策研究大学院大学教授の黒川清氏は行動力をあげる。

「世界ですばらしい人材がたくさん出てきているいま、他流試合をしないと本当の自分かわかりません。世界の広さを知るには、その中で生活してみることが大事です」

作曲家の藤倉大氏は集中力をあげる。

「ただ、正直に言って、アイデアって誰にでもあると思うんです。それをどうやって音符にして演奏させて、作品として形を持たせるか、というところにもものすごく悩むし、悩むときは一週間、二週間眠れないこともある。そこが一番つらいところですね」

映画監督の緒方篤氏は独創性をあげる。

「私は自然にアイデアが浮かんできちゃいます。普通の人みたいに休もうと思うんですけど、ちょっと休むとアイデアが浮かんできちゃうのでどうしようもないんですね。自然に、お腹がすくのと同じような感じで湧き出てくる」

産業用検査ロボットを作る会社社長の秋山咲恵氏は決断力をあげる。

「壁を突破するには小さな一歩でいいと思うんですよ。えいっと。結局は、そういった小さな勇気みたいなものの積み重ねなんじゃないかな、と私は思います」

そして最後に、中国の作家、魯迅のひと言を紹介する。

「人生という長い道のりを行くとき、ぶつかりやすい難関が二つあります。その一つは『分かれ道』です。これが墨テキ先生だと慟哭して引き返したという話です。ですが、私は泣きもしなければ引き返しもしません。

まず、分かれ道に腰をおろして、しばらく休み、あるいはひと眠りします。それから行けそうな道を選んで、また歩き出します。もし虎にぶつかったら木をよじ登って、虎が腹をすかして立ち去ってから降りてきます。もし虎がいつまでも立ち去らなかつたら、自分も木の上で餓死するまでですが、その前に自分を紐で木へ縛り付けて、死体だって絶対にくれてやりません。ですが、木がなかつたらどうか？そのときは仕方ありません。食わせてやるより手はありませんが、こっちだって一口くらいは噛みついてやります。

次に、もう一つの難関は『行き止まり』です。話によるとゲン籍先生(竹林の七賢人の一人)も号泣して引き返したそうです。ですが、私は、分かれ道のときの対策と同様、踏み越えて行きます。イバラの中でもかまわないで歩いて行きます。ところで、私は、イバラばかりで歩けないような場所に、これまで一度もぶつかったことがないのです。これは本来、世に行き止まりなるものがないせいなのか、それとも私の運が良かったせいなのかわかりませんが」